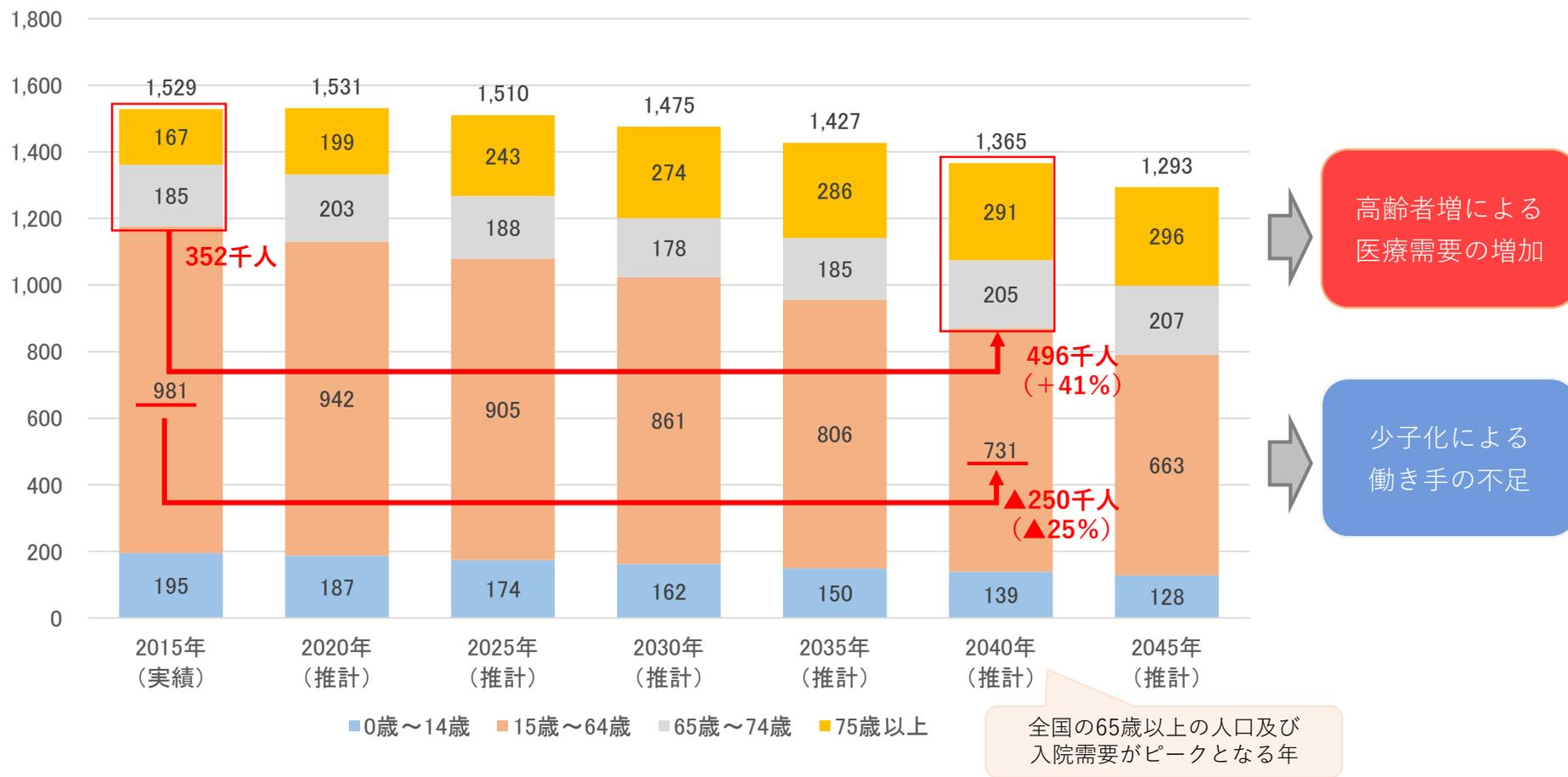


仙台医療圏における必要病床数について

- 仙台医療圏の総人口は2015年から2040年にかけて、16.4万人（▲11%）減少すると予測される。
- そのうち、65歳以上の人口は2040年にかけて14.4万人（+41%）増加し、医療需要の増加が予測される一方、生産年齢人口は25万人（▲25%）減少するため、働き手（医療従事者）が不足する中で医療需要の増加へ適切に対応できるか懸念がある。

仙台医療圏の将来推計人口の見通し [単位：千人]



仙台医療圏の特徴

需要

人口動態

- 人口総数は今後減少見込み。75歳以上人口については、2045年まで増加が続く見込み。

需要推計
(入院全体)

- 回復期や慢性期を含めた**全体の入院需要は2040年まで増加の見込み。**
- 急性期（DPC）の入院需要については2040年をピークに減少する見込み。**

需要推計
(3疾病)

- <悪性新生物> **入院需要（入院全体）は2040年、手術需要は2030年をピークに減少する見込み。**
- <脳卒中> **1日当たり患者数（入院全体）は2045年、手術数は2035年がピークとなる見込み。1日当たり患者数（DPC）は微増傾向で2040年をピークに減少となり、主には回復期を中心とした需要の増加を予想する。**
- <心血管疾患> **1日当たり患者数（入院全体）は2045年、手術件数は2035年がピークとなる見込み。1日当たり患者数（DPC）は増加傾向にあり、2040年がピークとなる見込み。**

POINT：需要と供給のバランスが取れているか

- ✓ 需要は減少過程にあるが、急性期需要と回復期により需要の増減に違いがある。
- ✓ **機能面、疾患領域面で役割分担を図っていくことで、今後生産年齢人口の減少により限られてくる医療資源を効率的に配置できるとともに、各領域の対応体制の強化にもつながることが考えられるため、今後検討が必要であると想定される。**

供給

機能別
病床数

- 必要病床数と比較すると、**回復期・慢性期が不足傾向、高度急性期・急性期が充足傾向。**
- 高度急性期・急性期の後方支援を行う回復期病床の在り方については議論が必要。**

供給体制
(3疾病)

- <悪性新生物> 東北大学病院が最多実績であるものの、多くの病院に分散している様子。
- <脳卒中> 手術実績が多く確認出来る病院は、広南病院とNHO仙台医療センター、東北大学病院の3病院。後方支援の連携が必要。
- <心血管疾患> 症例数は仙台厚生病院が最多。その他、手術を要する症例は6病院に分散している。

救急医療

- 元より医師数が多い病院では医師数が増加している。多くの病院が分担して救急車を受けているが、中には少ない医師数で多くの搬送を受けている病院もあり、働き方改革を含め今後も体制を維持出来るか確認が必要。